



子どもたちの情報モラルを育成しよう!!

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

子どもたちは、スマートフォンを日常的に使うようになり、GIGAスクール構想で配備した1人1台端末の活用も進み、様々な場面でICTを活用するようになりました。

デジタル庁が小中高校生を対象に実施したアンケート調査によりますと、「タブレットを使っているときに困っていること」、「タブレットをもっと使うために大切なこと」などについて、多くの小中学生は、「ルールを守ること」、「先生の言うことを聞くこと」が重要であると答えています。この調査結果からも、子どもたちは、学校や家庭における指導により、端末等を「学びの道具」として有効に活用しようと考えていることがわかります。しかし、一方で、子どもたちが、ネット依存やネット被害、SNSトラブルなどに巻き込まれるなどの事案が後を絶ちません。



このような現状を鑑みると、情報化社会を生きる子どもたちには、情報社会の危険性や情報の適切な扱い方などに関する知識が不可欠です。また、SNSトラブルなどを自分事として考えることができる資質を身につける必要があります。

学習指導要領総則では、「言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）」は、問題発見・解決能力と並び、『学習の基盤となる資質・能力』と位置づけられています。よって、各学校においては、情報を適切に取り扱うことや自分の行動に責任を持つこと、健康への配慮、危険を回避する方法、ルールやマナーを守ることの大切さなどについて、文部科学省をはじめとする様々な実践例を活用し、子どもたちの実態に応じた指導を行わなければなりません。

特に、夏休みを迎え、子どもたちは自由な時間が増え、ネットやSNSを利用する機会が増えることが予測されます。ぜひ、この時期に、子どもたちが自分自身をコントロールし、自分自身を守ることができる行動がとれるよう、子どもたちとともに考える時間を持つことが大切です。

進めよう！！



情報モラル教育

「『情報モラル教育』について、どう進めていけばよいか悩んでいる」という先生方からの声を聞きます。そこで今月号は、「情報モラル教育をどう進めていくか」について具体的な例を示しながらお伝えします。

(情報モラル) = (日常モラル) + (情報技術の特性理解)

情報モラルとは、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」であり、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解することなどである。このため、情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動、ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味について考えさせる学習活動、情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動、情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動、健康を害するような行動について考えさせる学習活動などを通じて、生徒に情報モラルを確実に身に付けさせるようにすることが必要である。その際、情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する各場面での情報モラルについて学習させることが重要である。また、情報技術やサービスの変化、生徒のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。併せて生徒の発達の段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残り完全に消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。

学習指導要領(平成29年告示)解説 総則 より

情報モラル教育 授業実施例 小学校の場合

準備	5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分
実態を把握する※	導入	導入動画を視聴する	個人で問題点を考える	グループワークで共有する	発表等で共有する	解説動画で確認する	ワークシート	まとめ	
	課題をつかむ	原因を追及する			解決方法を考える		個人目標を考える		

情報モラル学習サイト内にも一部アンケートがあります。

動画タイトル (中学・高等学校の場合は50分に勘案)

- 教材①「ゲームに夢中になると...」9'42(小学高学年)
- 教材②「身近にひそむネットの使いすぎ」10'22(中高生)
- 教材③「そのページ、確認しないで大丈夫？」8'05(小中学生)
- 教材④「ネット詐欺等に巻き込まれないようにするために」12'31(中高生)
- 教材⑤「軽い気持ちのID交換から...」10'25(小学生)
- 教材⑥「写真や動画が流出する怖さをしるう」9'00(中高生)
- 教材⑦「ひとりよがりの使い方にならないように」9'17(小学生)
- 教材⑧「情報の記録性、公開性の重大さ」7'38(中高生)
- 教材⑨「SNSへの書き込みの影響」8'04(中高生)
- 教材⑩「軽はずみなSNSへの投稿」(小学生)
- 教材⑪「パスワードについて考えよう」12'31(小学生)
- 教材⑫「大切な情報を守るために」11'20(中学生)
- 教材⑬「うまく伝わったかな？」6'39(小学高)
- 教材⑭「コミュニケーションの取り方を見直そう」7'08
- 教材⑮「SNSを通じた出会いの危険性」10'38
- 教材⑯「スマートフォンやタブレットなどの使いすぎ」9'12(小・中学生)
- 教材⑰「スマートフォンやタブレットなどの利用マナー」7'05(小学生)
- 教材⑱「著作物を公開するためには」10'29(中高生)
- 教材⑲「学習用タブレットの上手な使い方」(小1~4年生)
- 教材⑳「思ったままSNSに送信しただけなのに」(小5~中1年生)
- 教材㉑「タブレットを活用した学習活動について考えよう」(小5~中1年生)



【情報モラルに関する指導の充実に資する】
サイト内には、動画のスライド資料やワークシート、授業実施のための指導案等が用意されていますので、必要に応じて活用しましょう。

【伊丹市版ICT活用マニュアル】内
情報モラルモデルカリキュラムに沿って、**子ども達の発達段階に応じた授業内容を展開していきましよう。**

【情報モラルに関する指導の充実に資する】
〈児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き〉・〈保護者向けの動画教材・スライド資料〉より

教科指導における情報モラル教育の一例

情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、**各教科等との連携**や、さらに**生徒指導との連携**も図りながら実施することが重要である。

教育の情報化に関する手引き「第5章 情報モラル教育」
児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック より

- 引用した著書の出典を明示することや**著作権**に留意した指導等が必要です。
- 「相手を思いやる気持ち」「文字の大切さ」「言葉の表現」を考えさせる中で**モラルの向上**を図りましょう。
- 調べ学習などの活動で、**正しい情報**と**間違った情報**の区別・選別する方法について学ばせましょう。
- 著作権や肖像権といった**知的財産権**や個人の権利についても考えさせましょう。
- パスワード管理**の重要性やデータの取り扱いについて日々の授業で子ども達に意識させましょう。
- 友だちの回答や作品について、閲覧する際の**マナー**や**ルール**を子ども達に考えさせるなどしてから、遠隔での閲覧や編集等を活用させましょう。
- 大型提示装置やタブレット端末の画面の見にくさによる子ども達の**目の疲労**を考え、30分に1回は、20秒以上画面から目を離させましょう。
- 無理な姿勢**のまま長時間作業をし続けことが、疲労を軽減する上で重要です。「1つの正しい姿勢」はないので、グループで作業をさせる、立って発表させる、ノートをとる時やタブレット端末を操作する時の姿勢を意識させる、などの指導を行いましょう。



家庭との連携

タブレット端末は家庭に持ち帰って活用することで時間的・空間的な制約を超えた学びや創造的な学びを広げることができる。一方で、家庭でタブレット端末を使う際には、**使う時間や場所などについて子どもと一緒に考える場をもって**から使い始める必要がある。

学校と家庭が**方向性を共有**し、保護者の理解を得ながらタブレット端末の持ち帰りを行うことで、子ども達が使い方を考え意識して使うよう繋げていくことが大切である。

家庭でのICT端末の使い方を考えよう より



※昨年の夏季休業前に配付したプリントです。
プリント配布の際に、学校でのモラル教育についての指導内容を学年通信や学級通信等を活用して**ご家庭にお知らせするのも大切です。**

【伊丹市版ICT活用マニュアル】や【タブレット端末の活用ルールについて決めよう】については、「Garoon」の「ファイル管理」→「総合教育センター」→「教育の情報化」→「方針・マニュアル」内にあります。

夏季研修講座のご案内



7/25 (月) 10:00~12:00

英語教育実践講座①

関西大学 教授
竹内 理 氏

指導と評価の一体化
～ルーブリックを用いた評価方法
についての理論と演習～

10:00~12:00 7/26 (火) 14:00~16:00

人権教育研修会

宝塚大学 教授
日高 庸晴 氏

LGBTs の児童生徒の
存在を認識した学校で
の取り組み

生徒指導対応力向上研修①

兵庫教育大学大学院
教授
遠藤 裕乃 氏

不登校の理解と対応
～システム論的家族療法の
視点から～

7/28 (木) 14:00~16:00

授業力向上講座①

京都女子大学 教授
水戸部 修治 氏

個別最適な学びと協働的な学
びの実現を目指す国語科の授
業づくり
～ねらいに応じたICTの効果的な
活用について～

10:00~12:00 7/29 (金) 14:00~16:00

キャリア教育研修会

追手門学院大学
教授
三川 俊樹 氏

キャリアパスポートの
活用とキャリア・カウ
ンセリング

プログラミング教育研修会

関西大学 教授
小柳 和喜雄 氏

プログラミング教育の重
要性

8/1 (月) 10:00~12:00

特別支援教育研修①

大阪大谷大学 教授
小田 浩伸 氏

こんなとき、どうしたら
いい?
～子どもが学ぶソーシャルスキル
～

8/3 (水) 14:00~16:00

道徳教育実践講座①

四天王寺大学 教授
杉中 康平 氏

道徳教育について
～道徳の時間の対話を通して子
ども達に考えさせたいこと～

10:00~12:00 8/4 (木) 14:00~16:00

生徒指導対応力向上研 修② (オンライン)

一般社団法人もふもふ
ネット代表理事
藤岡 淳子 氏

性暴力の理解と対応

特別支援教育研修②

桃山学院大学 講師
大阪成蹊大学 講師
石塚 謙二 氏

授業のユニバーサルデザ
イン
～どの子も分かる授業をめ
ざして～

10:00~12:00 8/8 (月) 14:00~16:00

授業力向上講座②

大阪大谷大学 教授
今宮 信吾 氏

児童生徒が主体的に参
加する学級づくり
～明日も学校へ行ってみた
いという子どもたち～

英語教育実践講座②

平安女学院大学 教授
中西 浩一 氏

外国語教育の『小中接
続』で大切にしたいこと

8/9 (火) 14:00~16:00

若手教員のためのスキルアップ講 座

道徳教育実践講座② (オンライ ン)

畿央大学大学院 教授
島 恒生 氏

「特別の教科 道徳」の授業
の進め方と工夫

8/10 (水) 10:00~12:00

授業力向上講座③

岐阜聖徳学園大学 教授
玉置 崇 氏

主体的・対話的で深い学びを生
み出す算数・数学科授業づくり
～ICT活用も踏まえて～

10:00~12:00 8/16 (火) 14:00~16:00

授業力向上講座④

神戸大学 教授
岡部 恭幸 氏

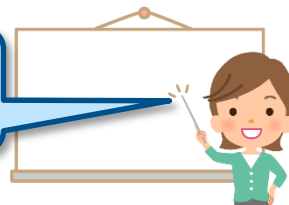
一人ひとりの児童の数
学的な見方・考え方の
成長を目指す授業

情報教育研修会

園田学園女子大学
教授
堀田 博史 氏

情報セキュリティ・モラ
ルを意識した1人1台情
報端末の活用

研修の申し込みについては、各学校園所長あて申込書式を送付してしま
す。管理職を通してお申し込みの上、ご参加ください。



発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番

TEL 072-780-2480

FAX 072-780-2482

開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00

水・土 : 9:00~17:00

休館日 日曜・祝日、年末・年始

総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>

電話 072-772-6171 (電話相談)

072-780-2484 (来所相談)

お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。

(来所・電話相談)

月・火・木・金 : 9:00~21:00

水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

